

麦島小学校 校内研修計画

1 研究主題

自ら考え、互いに学び合う児童の育成
 ～教師が「教える」授業から、児童が「学ぶ」授業へ～

2 主題設定の理由

(1) 社会の情勢から

近年情報化やグローバル化といった社会の変化が加速度的に進展し、複雑で予測困難な社会となってきている。このような中で、社会や人生を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていく力、すなわち「生きる力」を育成していくことが期待されている。児童一人一人が、予測できない社会に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが求められる。

(2) 学習指導要領改訂から

新学習指導要領では、「生きる力」の理念の具現化のために、3つの視点で学習の方向性が示されている。

- 何ができるようになるか：学びに向かう力、生きて働く知識・技能の習得
 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- 何を学ぶか：新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設
 や目標・内容の見直し
- どのように学ぶか：主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善

(3) 本校の実態から

① 県学力調査の結果から（平成29年12月実施）

国語における各学年の結果は、以下の通りである。（学年は現学年）

国語	4年			5年			6年				
	県	本校	差	県	本校	差	県	本校	差		
話すこと・聞くこと	75.0	67.2	-7.8	話すこと・聞くこと	79.7	67.9	-11.8	話すこと・聞くこと	64.5	51.6	-12.9
書くこと	67.4	60.5	-6.9	書くこと	69.5	54.3	-15.2	書くこと	59.4	66.8	7.4
読むこと	41.5	22.4	-19.1	読むこと	57.5	50.3	-7.2	読むこと	58.4	68.9	10.5
言語文化と特質	68.0	60.8	-7.2	言語文化と特質	58.9	54.9	-4.0	言語文化と特質	61.8	59.4	-2.4
関・意・態	71.3	51.4	-19.9	関・意・態	75.1	60.0	-15.1	関・意・態	69.3	78.5	9.2
話す・聞く	73.2	68.9	-4.3	話す・聞く	75.7	65.2	-10.5	話す・聞く	59.2	46.1	-13.1
書く	63.2	54.5	-8.7	書く	65.3	49.0	-16.3	書く	58.5	60.1	1.6
読む	38.4	24.7	-13.7	読む	59.1	54.3	-4.8	読む	56.7	66.1	9.4
言語	68.0	60.8	-7.2	言語	58.9	54.9	-4.0	言語	61.8	59.4	-2.4
知識	60.8	53.8	-7.0	知識	61.2	55.3	-5.9	知識	62.5	60.0	-2.5
活用	66.9	49.3	-17.6	活用	71.7	58.0	-13.7	活用	58.9	64.3	5.4
総合	62.5	52.4	-10.1	総合	64.8	56.2	-8.6	総合	61.0	61.7	0.7

6年生は「話すこと・聞くこと」「言語文化と特質」の領域を除いて、県平均を上回る結果となっている。しかし、4年生・5年生においては、ほぼ全領域・全観点で県平均を5ポイント以上下回る結果となっている。国語の能力育成には各領域の能力が密接に関わっていることから、全領域・全観点において能力を向上させていくための取組を進めていく必要がある。

算数における各学年の結果は、以下の通りである。（学年は現学年）

算数	4年			5年			6年				
	県	本校	差	県	本校	差	県	本校	差		
数と計算	69.9	71.3	1.4	数と計算	79.9	80.4	0.5	数と計算	68.5	66.4	-2.1
量と測定	54.7	58.8	4.1	量と測定	70.9	71.1	0.2	量と測定	62.6	66.4	3.8
図形	61.4	63.7	2.3	図形	60.9	58.2	-2.7	図形	75.4	88.2	12.8
数量関係	66.7	70.9	4.2	数量関係	60.3	66.4	6.1	数量関係	79.4	80.3	0.9
関・意・態	55.0	61.5	6.5	関・意・態	61.6	62.9	1.3	関・意・態	85.2	93.4	8.2
考え方	52.0	53.8	1.8	考え方	62.5	61.6	-0.9	考え方	66.2	70.5	4.3
技能	75.2	75.2	0.0	技能	75.5	78.8	3.3	技能	78.4	81.1	2.7
知識・理解	67.8	72.1	4.3	知識・理解	76.9	77.4	0.5	知識・理解	64.1	60.5	-3.6
知識	71.5	73.6	2.1	知識	76.2	78.2	2.0	知識	70.6	69.9	-0.7
活用	52.7	55.7	3.0	活用	62.3	61.9	-0.4	活用	70.5	75.6	5.1
総合	64.0	66.5	2.5	総合	69.9	70.9	1.0	総合	70.6	72.4	1.8

算数においては、一部の領域、観点を除き、全学年で県平均を上回っている。県平均を下回っている領域、観点においても、その差に大きな開きはないと言える。

これらの結果から、昨年度から四則計算等の基礎的・基本的事項の定着を図るための「麦小タイム」や活用力育成を目指した「麦っ子タイム」の取組等の成果が少しずつ現れてきているということが言える。学力の更なる充実のために、これまでの取組をふり返り、学年の系統を意識しながら、取組方や学習内容等をさらに工夫改善していく必要がある。

② 標準学力検査NRTの結果から（学年は現学年）平成30年3月実施

学年	国語（学力偏差値）	算数（学力偏差値）
4年	50.8	53.1
5年	50.9	54.3
6年	49.4	52.5

国語科の平均は、6年生は標準50.0を下回っているが、4、5年生はわずかに上回っている。内容を整理しながら聞いたり話したりすること、段落相互の関係を捉えながら読み取ることに課題がある。

上位群の出現率が高かったのは6年生で、下位群の出現率が高かったのは5年生である。学年間で見ると大幅な差は認められないが、男女差があり、男子がやや学力不振であると言える。

算数科の平均は、全国標準に比べ上回っている。約半数の児童が「ほぼ達成」以上という結果が得られており、全体的に習熟度は高いと言える。

上位群の出現率が高かったのは4年生で、下位群の出現率が高かったのは5年生である。学年間で見ると大幅な差は認められないが、男女差があり、男子がやや学力不振と言える。

これらの結果から、国語・算数ともに児童の知的好奇心や学業への志向性を育てていく学習を進めていく必要がある。

③ 全国学力・学習状況調査の結果から（平成29年4月実施）

国語全体では、全国平均と比較して、国語Aで1.8ポイント、国語Bで2.5ポイント下回っている。領域別に見た課題は、以下の通りである。

	領域	全国との比較
国語A	書くこと	-3.7
	伝統・国語	-1.1
	読むこと	-6.6
国語B	書くこと	-1.7
	読むこと	-0.5
	話すこと・聞くこと	-5.9

この結果から、「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域に課題があることがうかがえる。これらの能力は密接に関わっているため、国語力全般の向上を全学年で取り組んでいく必要がある。

算数全体では、全国平均と比較して、算数Aで4.6ポイント、算数Bで2.9ポイント下回っている。領域別に見た課題は、以下の通りである。

	領域	全国との比較
算数A	数と計算	-4.8
	図形	-0.3
	量と測定	-11.9
算数B	数と計算	-1.1
	図形	-10.1
	量と測定	-5.5
	数量関係	-3.3

この結果から、ほぼ全領域に課題があることがうかがえる。中でも「量と測定」「図形」領域が大きな課題であると言える。児童が見通しを持って課題に取り組むことや児童相互の学び合いの充実を図るなど、主体的・対話的な学びの視点から授業改善を図ることで、児童の学力向上を図る必要がある。

④ 県学力調査（意識調査）の結果から（学年は現学年、平成29年12月実施）

児童	4年			5年				6年			
	県	本校	差	県	本校	差H29	差H28	県	本校	差H29	差H28
あなたは勉強でわからない内容があったとき、先生や友達に聞いたり、調べたりするなど、理解できるように自分なりに努力をしていますか。	80.0%	84.2%	4.2%	82.9%	83.8%	0.9%	-10.4%	83.9%	81.6%	-2.3%	-5.2%
あなたは授業で難しい内容を勉強したり、難しい問題に挑戦する時間をもっと増やしてほしいと思いますか。	68.1%	81.6%	13.5%	67.3%	47.3%	-20.0%	-11.2%	63.2%	65.8%	2.6%	-1.9%
あなたは次の教科の勉強が好きですか。(国語)	71.4%	73.7%	2.3%	67.6%	51.4%	-16.3%	-10.1%	62.4%	73.7%	11.3%	9.0%
あなたは次の教科の勉強が好きですか。(算数)	78.1%	73.7%	-4.4%	72.6%	62.2%	-10.4%	-17.5%	68.2%	61.8%	-6.3%	-11.4%
次の教科は、どの程度、理解できていますか。(国語)	84.1%	89.5%	5.4%	84.1%	70.3%	-13.8%	-7.2%	86.3%	93.4%	7.1%	-1.5%
次の教科は、どの程度、理解できていますか。(算数)	84.6%	86.8%	2.2%	83.0%	75.7%	-7.3%	-13.1%	83.2%	86.8%	3.7%	-0.9%
この1ヶ月間に本をおよそ何冊読みましたか。(5冊以上で)	75.9%	68.4%	-7.5%	70.8%	77.0%	6.2%	-10.1%	58.5%	65.8%	7.3%	1.4%

5年生以外は県平均を上回った項目が多い。4、6年生は、学習理解の項目で国語、算数ともに県平均を上回っている。5年生は、難しい問題への学習意欲の項目で県平均を10ポイント以上下回る結果となっている。また、算数が好きの項目で県平均を下回っているものの、平成28年度と比較すると好きと答えている割合は増えている。

このことから、ドリル学習等で基礎・基本の定着を図るとともに、それを活用して課題解決に取り組む学習の充実を図っていくことで、児童に自信を付けさせていく必要がある。特に、5年生は、難しい課題に取り組む学習意欲や教科への学習意欲に課題があるため、魅力ある学習課題の設定やめあての明確化、自力解決のための視覚的支援を含む適切な支援の充実など、児童の学習意欲を喚起し、教師が「教える」授業から児童が自ら「学ぶ」授業への転換を図る取組を進めていく必要がある。

⑤ アンケートQ-Uの結果から（学年は現学年、平成29年7月実施）

	学級生活満足群	非承認群	侵害行為認知群	学級生活不満足群
4年	37% (27人)	26% (19人)	11% (8人)	26% (19人)
5年	30% (21人)	23% (16人)	13% (9人)	35% (25人)
6年	54% (42人)	19% (15人)	6% (5人)	21% (16人)

※ 学級生活満足群：学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童
 非承認群：いじめや悪ふざけを受けてはいないが学級内で認められることが少ない児童
 侵害行為認知群：いじめや悪ふざけを受けているか、他の児童とトラブルがある可能性が高い児童

学級生活不満足群：耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い児童

この結果から、6年生は学級生活に満足している児童が約半数いることが分かる。4、5年生は、満足群に属する児童が3割程度であるが、5年生は不満足群に属している児童が3割を超えており、満足群を上回る結果となっている。この結果と県学力調査（意識調査）の結果と併せて分析すると、学級生活に満足している児童の割合が高い学年は

学習への意欲や理解度が高くなっており、不満足群が多い5年生は、学習意欲と理解度が低くなっていると言える。このことから、学級生活と学力は密接に関わっていることが考えられる。今後、不満足群が多い学年の学習意欲や理解度を高めていくために、ともに学び合える学級集団づくりに向けた取組を強化していく必要がある。

⑥ 日常生活から

本年度当初に実施した職員アンケートから、本校児童の「学力充実」の視点から見える課題として、以下の点が挙げられている。

- 学習内容の理解と定着が難しい。
- 自ら取り組もうとする態度が不十分である。
- 難しいことでもやり遂げようとする意志が不足している。
- できる、分かる喜び、主体的・対話的な学びの体験が不足している。
- 授業への構え（準備、忘れ物をしない等）、学習規律の定着が不十分である。
- 筋道を立てて考える、考えを図や表等で表す等の能力が不足している。
- 自分の考えを分かりやすく伝える、話し合い活動の充実を図る必要がある。
- 自分の学びを生かす力が不足している。

本校の児童の様子を見ると、授業内外において児童同士の関わりが不足したり、思いをきちんと伝えられなかったりする場面がよく見られる。このことが、アンケートQ-Uの結果にも見られるように、学級生活への不満足につながっていると思われる。また、授業の中でも、自分の思いや考えを整理してわかりやすく表現することを苦手とする児童や、困難な課題に対して根気強く取り組んだり、理解できるまで繰り返し学習に取り組んだりしようとする意識が低い児童が見られる。さらに、本校で継続的に取り組んできた話を聞く姿勢等の学習規律の面でも定着に課題が見られる。

3 今年度の研究の方向性について

平成28年度から、本校は「学力充実研究推進校」の指定を受け、2か年にわたり研究を進めてきた。

昨年度テーマ

確かな学力を身に付け、生き生きと学習に取り組む児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを通して～

昨年度は、一昨年前より取り組んできた、学習のきまりをはじめとする「主体的・対話的な学びを支える学習基盤」を土台として、「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」と「絆づくり・居場所づくり」の2つの視点で取組を行ってきた。

成果として、授業スタイルや思考ツールの活用、学級会の実施、児童会活動の充実、学習規律の徹底等、全校で共通理解した取組を進めてきたことで、児童の学習規律や学ぶ意欲、学び合うことができる集団づくり、主体的・対話的な学びを展開できる授業のあり方について研究を深めることができた。

反面、学習規律や基本的な生活習慣、学習への意欲、基礎学力の定着について個人差が大きいこと、児童同士の人間関係をさらに深める取組がまだ必要なこと、児童の学習に対する主体性を育むこと、児童の見方・考え方を深める対話の充実をさらに図っていく必要があることなどが課題として挙げられた。

今年度は、昨年度まで取り組んできた「麦島授業スタイル」と「学びを支える学習

基盤」を生かして、「教える」授業から「学ぶ」授業への転換を図る「授業改善」に向けた研究に取り組みたいと考える。この研究を通して、次のような「学ぶ楽しさを実感できる」児童の育成を図りたい。

- ① 見通しを持って粘り強く学習に取り組むとともに、自らの見方・考え方を働かせながら、主体的に学習課題の解決策を考えることのできる児童
- ② 児童同士の協働、教師との対話など、対話的な学びの充実を図ることで、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることができる児童

また、教科については、特に絞り込まず、研究を進めていくようにする。

4 研究のテーマ及び仮説

<研究テーマ>

自ら考え、互いに学び合う児童の育成
～教師が「教える」授業から、児童が「学ぶ」授業へ～

<研究の仮説>

- ① 児童が自らの知識や経験等と関連付けて考えることができる学習課題を設定し、課題解決に向けた児童の学びを促す工夫を行えば、児童は主体的に課題解決に取り組むことができるであろう。
- ② 児童相互が関わり合いながら考えを深め、広げることができる場の工夫を行えば、児童は自己の見方・考え方の深まりや自己の成長を実感でき、主体的に学ぶ意欲を高めることができるであろう。

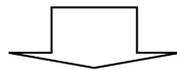
5 テーマについて

(1) 「自ら考え」とは

- ① 児童が学習課題解決への見通しを持つことで、主体的に学習に取り組もうとすること。
- ② 自らの知識や経験等を生かして、自分の考えを具体的に表すことができること。

(2) 「互いに学び合う」とは

- ① 児童相互が関わり合いながら様々な考えを共有し検討する場を通して、自らの見方・考え方を深め、広げること。



主体的に学ぶ児童の育成

6 研究の内容

(1) 児童が主体的に考える課題設定と解決に向けた学びを促す工夫

- ① 児童が知識や経験等と関連付けて考える学習課題の設定
 - 多様な解決方法があり、多様な考えが生まれる問い（学習課題）の設定
 - a 児童の思いや問いから生まれ、目標に照らした課題
 - ・ 学習問題に結び付くような初発問や導入を工夫した課題
 - ・ 児童の思いや問いを焦点化した課題

- b 必要感や切実感を伴う課題
 - ・ 実際の生活との関連のある課題
 - ・ 生活経験とのずれのある課題
 - ・ 明確な目的のある課題
- c 思考力・判断力・表現力が必要となる課題
 - ・ 習得した知識・技能を日常生活で実際に使う場面と関連付けた課題
 - ・ 習得した知識・技能を応用する課題（全学調や県学調の活用）
- d 児童の実態に即した課題
 - ・ 児童の興味・関心に即した学習課題
 - ・ 適切な難易度の課題

② 課題解決に向けた児童の学びを促す工夫

- 自力解決の方法を見い出すための活動の位置付け
 - a 本時の学習課題と関連する既習内容の想起（学習掲示物、ノートの活用）
 - b 思考を可視化するための思考ツールの活用
 - ・ マインドマップによる知識・経験等の整理と課題解決との関連付け
 - ・ 課題解決に向けた、ペア学習等による情報収集
 - ・ ホワイトボード等を活用した思考の可視化

(2) 児童が思考の深まりや広がりを実感できる場の工夫

① 目的に応じた対話の工夫

- ・ブレインストーミング（児童の意見をいくつかの柱に整理し、学び合いの視点を明確にする。）
- ・ワールドカフェ（小グループによる意見交換を、メンバーを変えながら数回行う。）
- ・グループトークによる対話
- ・ペアトークによる対話

② 思考の共有化を促すツールの活用

- ・ ホワイトボード ・ タブレットPC など

③ 対話の基本型（話型）の確立

- ・ 「わたしは」「ぼくは」を主語にした発言
- ・ 根拠を明確にして話す。（私は・・・と思います。なぜなら・・・だからです。）
- ・ 相手の話に感想を返す、相手の話を受けて自分の考えを話す。
- ・ 学習リーダーによる学び合いの進行

④ 学び合いの目的の明確化（目指す児童の姿を明確にして）

- ① 導入時に考えを持てなかった児童が、終末時に考えを持てるようになること。
- ② 児童が自分の考えの間違いに気付き、修正できること。
- ③ 自分の考えに確信を持てること。
- ④ 最初に持っていた考えよりも質の高い考えを持てるようになること。

(3) 研究のベースとなる取組（昨年度までに取り組んだことを含めて）

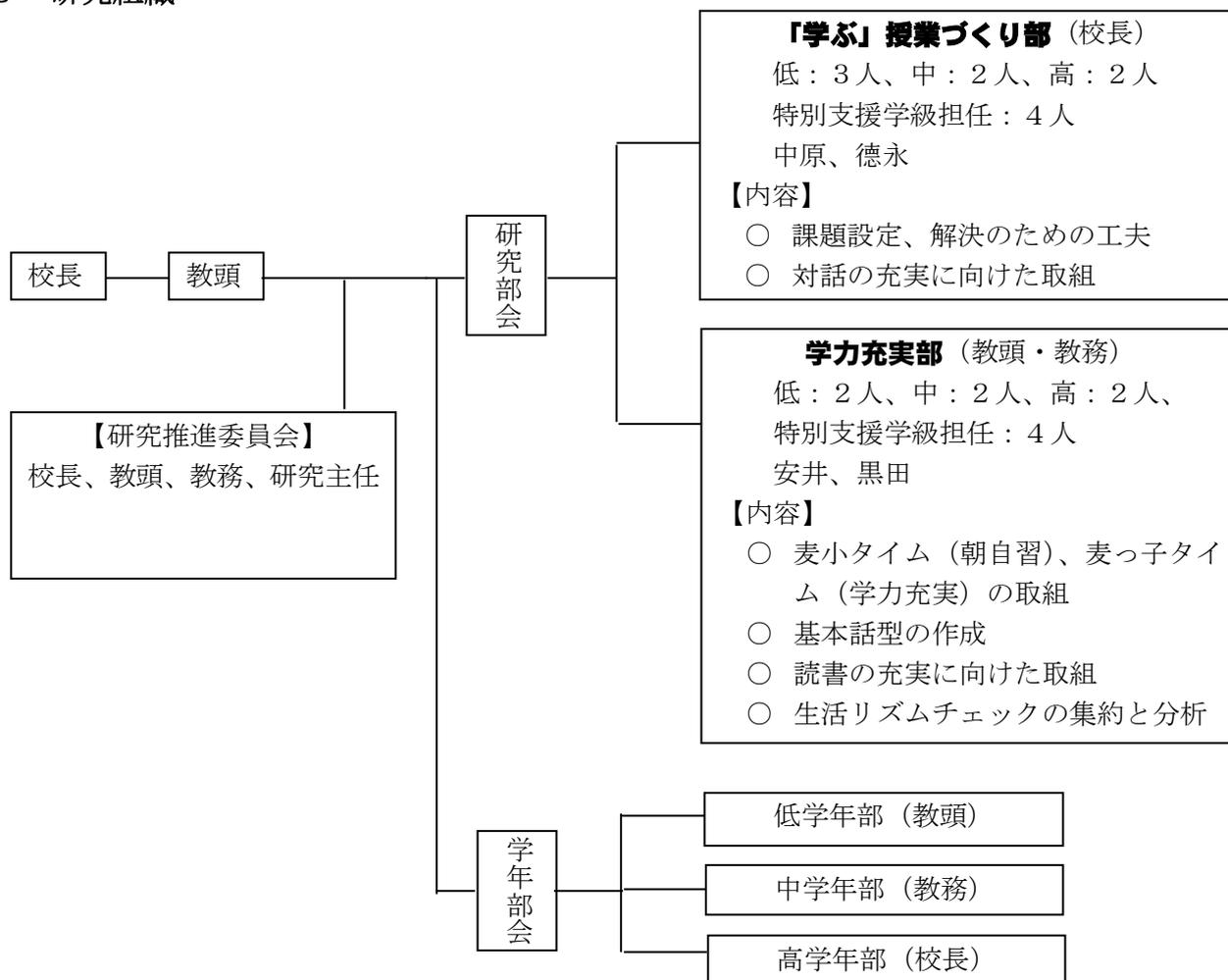
- 授業づくりのベースとなる「麦島授業スタイル（つかむ・考える・くらべ合う・まとめる・ふり返る）」に基づいた授業を行う。
- 「麦っ子の座り方・立ち方」「声のものさし」「学習の決まり」については、全校で統一して取り組む。
- 朝自習の「麦小タイム」、学力充実のための「麦っ子タイム」を確実に実施する。

- 「ハッピーブック」や「読み聞かせ」等を通して、読書活動の充実を図る。
- 小中一貫・連携の観点から、「家庭学習の手引き」「生活リズムチェック」の取組の充実を図るとともに、懇談会やPTA総会等で家庭への啓発を行い、学校と家庭が連携して取り組む機運を高める。

7 研究の方針

- (1) 授業研究会を学力充実に向けての授業改善の柱とする。
 - ① 授業公開を日常的に行う。
 - ② 大研は、全員参加で行い、各学期に1回ずつ実施する。(内1つは道徳とする。)
 - ③ 大研は、低・中・高学年で1回ずつ行う。
 - ④ 中研は、低・中・高学年で一人1回ずつ行う。(全員授業)
 - ⑤ 授業研究会では、研究の視点に沿った意見交換、児童の学びや育ちについて互いの意見を自由に交換する。授業前の週に事前研を実施する。
 - ⑥ 各学期に「授業公開旬間」を設け、互いの授業を見せ合うことで、授業力向上を図る。
 - ⑦ 3学期に初任者2名による研究授業・授業研究会を実施する。
- (2) 人権同和教育や特別支援教育に関する研修、実技研修等を通して、教職員としての修養を積む。

8 研究組織



【組織について】

- 本年度は、研究に関する取組を行う「研究部会」と、学年毎に活動するための「学年部会」の2部会を設置する。
- 中研は、低・中・高学年毎に活動する。
- 職員は、研究部会・学年部会それぞれに所属し、活動する。
- それぞれの部会研修の時間を設定し、各部会で話し合い等を進める。
- 研究推進委員会は、年に数回開催する。

9 研修日程（年間30回）

月 日	研 修 内 容	主 査	
5	2 今年度の研修について（主題の検討、研究計画について等）	山田て	
	9 ☆三中校区合同研修会①	全員	
	30 ★人権同和教育レポート事前検討会	山田ち	
6	6 ★三中校区人権同和教育レポート研修	開 授 旬 業 間 公	全員
	20 ◎大研事前研		山田て
	27 ◎大研（山田て・5の1）		山田て
7	11 中研（低：山中2-2、中：松嶋3-2、高：島田5-2）	各学年	
	18 1学期の反省、今後の研修について	山田て	
夏季 休業中	特別支援教育に関する研修 防災に関する研修（消火訓練等）		
8	20 ☆三中校区合同研修会②	全員	
	22 各研修会の復講、2学期からの方向性について	山田て	
9	5 性に関する指導について	黒田	
	19 ◎大研事前研	山田て	
10	3 ◎大研（坂本・3-1）	授 業 公 開 旬 間	山田て
	11 中研（低：山口2-1、中：坂西4-1、高：安井・理科）		各学年
	17 ★人権同和教育に関する研修		山田ち
	25 ★人権同和教育Cブロック授業研		全員
	30 ☆植柳小学校研究発表会		全員
	31 中研（低：白石1-1、中：徳永・音楽、高：（特支））		各学年
11	7 中研（低：本田1-2、中：中村・算数、高：黒木6-2）	各学年	
	21 特別支援教育に関する授業研究（②： 、③： 、④： ）	特支担任	
	28 ☆三中校区合同研修会③	全員	
12	12 外国語・外国語活動に関する研修	坂本・島田	
	19 2学期の反省と3学期からの取組について	山田て	
1	9 初任者授業事前研（泉・塩田）	山田て	
	23 初任者研究授業・授業研究会（泉・塩田）	山田て	
	30 ◎大研事前研 ※道徳	山田て	
2	6 ◎大研（山田ち・2-3）	開 授 旬 業 間 公	山田て
	20 ☆三中校区合同研修会④		全員
	27 ★人権同和教育レポート読み合わせ		山田ち
3	13 1年間の総括と次年度への志向	山田て	

※ ★は人権教育関係の研修、☆は三中校区に関わる研修

※ ○は授業研究（中研）、◎は授業研究（大研）とする。

※ 大研のうち、1つは道徳の授業を行う。

※ 全員必ず1回は、公開授業（大研か中研）を行う。

※ 特別支援学級の先生方の授業研については、次の通りとする。

① 10/31（水）の中研で、高学年の児童が在籍する学級（ひまわり3かつくし2）の授業を行う。

② 11/21（水）は、まだ実施していない5学級で、公開授業を行う。

※ 研究授業前は、指導案検討の機会を持つ。

※ 毎学期1回、「授業公開旬間」を設ける。